

第4回 西脇市障害者地域支援会議（運営会議） 記録

平成26年1月31日（金）15:30～17:00
西脇市総合福祉センター 集会室

出席者 13名

司会

- ・開会
- ・今日の運営会議では、前回（H25.11.26）のまとめから、参加者で協議して選んだ内容について議論を深めたい。

事業所

Aさん

- ・「高齢化」について議論を深めてはどうか。
- 「高齢化」をテーマに話し合うこととなる。

事業所

Bさん

- ・知的障害の人が65歳になったら、介護保険の対象になるのか？
- ・入所している障害者が65歳になったら、介護施設への入所に移行するのか？

行政

- ・知的障害の人に限らず、65歳になったら介護保険を優先して利用してもらうことになる。介護保険では対象にならないが必要とされるサービスについては障害福祉で補うことができる。
- ・65歳になったタイミングで障害者支援施設から介護施設への入所に移行する流れはできていない。介護施設も入所したいと希望して待っている人がいる状態。

事業所

Cさん

- ・知的障害の人は老化が早い。知的障害のある夫妻がヘルパーを利用して2人で暮らしているが、周囲から見ていると、金銭管理や栄養管理、清潔保持など心配なことがある。
- ・通所施設とヘルパーは連携している。
- ・身体が元気なうちはいいが、本人らは近所にいる親戚と関わりたくないと思っている様子で、今後困った時にはどこに相談していけばいいのか？
- ・障害があるために、自分の老化を認知しにくいとの傾向もある。
- ・高齢になっても障害のない人と一緒に行ける場所がない。
- ・保護者の高齢化により、服薬管理ができず状態が悪くなる。

- 事業所
Aさん
- ・自分の高齢による能力等の低下に気付かず従来通りの通所を継続している方について、本人にとってはしんどさを感じることなく元気で過ごせているのでいいのかもしれないと思うが、従来通りのサービス利用でいいのか？と考えることもある。
- 相談事業所
- ・相談支援センターでは身体障害のある人からの相談は少ない。身障協会には高齢化に関する相談などはあるか？
- 当事者
Dさん
- ・協会に入ってくれる人が少なく、相談も少ない。協会への入会を市からもっと勧めてもらいたい。
 - ・電話相談は受け付けている。
- 事業所
Eさん
- ・「本人の高齢化」、「保護者の高齢化」それぞれに課題となることや特徴について書き出していく（本人：青い付箋、保護者：緑の付箋）
→ まとめ②参照
 - 出てきた課題から、「本人の課題となるものに対し、現在利用できているサービス、こんなサービスがあったらいいのと思われるサービス」についてフリートークを行う。
- 事業所
Fさん
- ・ヘルパーはその人の生活のほんの一部を手伝うだけ。住む環境が整っていない、日中ずっと家にいる等、全体的な日々の生活の仕方が気になる。
 - ・将来のために在宅と入所との中間的な場所で誰かの目が届く状態で集団生活できれば安心なのでは？
- 事業所
Gさん
- ・保護者にサービス利用の枠があるように感じることもある。
- 相談事業所
- ・本人や家族の意向等で、ヘルパー利用以外のサービス利用をしない人も多い。ヘルパーが定期的に本人宅に行くことで、安否確認も含め様子を見てもらえるのでありがたい。
- 事業所
Cさん
- ・中間的な場所としてグループホームがある。
 - ・体験利用も可。初回は夕飯を食べて自宅に帰るという夕飯体験を希望される方もある。臨機応変に対応している。
- 事業所
Cさん
- ・グループホームを開設したいと検討しているが、場所の調整ができていない状況。

- ・選択肢は多い方がいい。
- 事業所
Gさん
- ・自事業所もそうだが、近隣のグループホームやケアホームには空いている部屋がある。必要だとの声は聞かれるが実際の利用がないのはなぜだろう？
- 事業所
Bさん
- ・親の問題だと思う。「宿泊訓練はOK」だけど、「住むのはう～ん」という感じ。
- 事業所
Cさん
- ・親は子どもを施設に預けることに罪悪感を持つこともある。それぞれの家庭の事情があると周囲が理解していても、子どもを施設入所させた保護者は居心地が悪そう。(他の保護者から預けたことで批判的な言葉がある)
 - ・親が望むような支援をしてくれるのか不安。放ったらかしにされるのではないかと思う。
- 事業所
Bさん
- ・他人の世話になることに抵抗を感じることはあると思う。
親が障害者の介護を当事者の姉妹に託したために姉妹は結婚せず本人の介護をしているケースもある。この結果は、保護者が願っていたことなのか疑問に思う。
 - ・他人に迷惑をかけたくないとの思いもある。
 - ・保護者が高齢化し経済的に困窮すると、子どもの障害年金で家計を補おうとするため、子どもを手離さないケースがある。
- 教育関係者
Hさん
- ・学校現場では障害のあるなし関係なく、様々な家族にそれぞれの課題を感じることもある。学校で子どもに対し必要だと思われる声かけを行い習慣づけようとしても、保護者の協力が得られず家では取り組めないこと等もある。保護者自身に課題があることもある。
- 相談事業所
- ・自分の子どもを安心して預けられる場所とはどのような場所だと考えておられるか？
- 事業所
Gさん
- ・清潔感がある、栄養管理、体調管理ができる、透明性がある(保護者がいつでも訪れることができる)所が望ましい。
 - ・日中活動の充実も必要。
 - ・金銭管理等への不安。成年後見制度や日常生活支援事業の活用を検討する必要もある。
 - ・住む場所と日中活動の場の支援者が連携する必要がある。

事業所

Aさん

- ・障害福祉サービスが利用者だけでなく広い範囲に浸透することで一般化し、サービス利用が当たり前のことになれば、保護者も誰に遠慮することもなくサービスを利用できるのではないか。

行政

- ・ここで今日話し合わせ内容を、地域支援会議に提出し、そこで意見や方向性を確認していただき、この会議に戻すことになる。その内容を踏まえて、もう一度皆さんで検討していきたいと考えている。

- ・閉会。